

○コーディネーター

お三方のお考え、いろいろな今の財政状況、特に非常に厳しい自治体の財政の中で合併をどう考えるか、また、その中で考えるとすれば町民の方とともに考えるんだという、そういう要件、お考えというのが皆さん出ていたと思いますけれども。

では、ここで大野町長さんから、じゃあ町はこういうこれまで合併に対して取り組みをしてきたのか、その辺についてお話を伺いたいと思いますけれども、よろしくお願ひいたします。



大野
眞

○大野町長

皆さん、こんにちは。まず、本日議会の皆さんがこういう場を設けていただきまして本当にありがとうございました。

合併の取り組みということですが、合併の議論というのは避けては通れない問題だとまず思っています。そういう中で、柴町の場合に、これに限定されたわけではないんですけども、印西地区、そして成田空港圏という結びつきのパターンが示されました。そういう中で、基本は町民の方と情報を共有しなければいけないというふうに思っております。そういう中で、どういふものをどういふ形で町の皆さんにお知らせしていくのかというのがまず第一に考えたことです。そういう中で、枠組みの中にある関係市町村の、やっぱり一番身近な生活をしている上でのサービス内容とか、こういうものをまず初めに町民の皆さんにお知らせすると、合併を考えていくんだということでお知らせするというところから始めました。これは役場の中の話なんですけれども、その後、いろいろな形で、また市町村の状況であるとかというものもお知らせをしていこうというふうに考えております。アンケートも一番最初の本当に手始めというようなアンケートですんで、町民の皆さんが今現在どういふ認識を持っておられるのかというのをアンケートさせていただきました。そういう中でも、仮に合併を考える場合には、合併した場合に今の枠組みでは新しい市になるわけですが、なったときに柴町の位置づけあるいは住民サービス、公共料金、こういうものを合併の判断材料としたいという回答が大多数を占めております。そういう中では、今後もそういう形で調査を進めていかなければいけないと思っております。

これは庁内のことなんですけれども、また、庁外におきましてはやはり合併は自分の町だけではできません。柴町だけがここがいい、あそこがいいと言ってもできる問題ではありません。そういう中で、印西地区においては、少し早く今年の1月ごろから関係市町村長で3度ほど会合を持ちまして、合併を検討していく上でどういふ形でやっていくかというふうなお話をしてきました。その間も、職員レベルでは何度も会合を持ちまして、その進め方について検討してまいりました。その結果、まちづくり研究会というものを発足いたしまして、今後、先ほど講師の方から法定協議会の話が出たんですけども、任意の協議会を設置して、法定協議会と同じような内容の検討をしていこうじゃないかというような話になりました。また、成田空港圏も先ほどお話をありましたけれども、今まで成田市さんは市町村合併を考える方向性が決まっていなかったことになかなか一緒に議論はできなかったんですけども、18日に2市7町の議長さん、そして我々首長関係も集まりまして、やはり同じような形で研究していこうということになりました。これから合併するのもしないのか、あるいはどこをどうするかということも、この枠組みの中で研究していったあらゆる事項を町民の皆さんにお知らせして、意見の集約というのをしていきたいなと思っております。

○コーディネーター

4人の方のお話を伺っていると、必ず町民の方の意見を聞くと、いろいろな考えを集約したいということも出てまいりましたし、議会の副議長さんの、きょうはちょっと病気の方で出席いただけませんが、報告の中にも町民の方の意見を集約して一体化した考え方というのを打ち出していきたい、全体としてそういうものを一体化するんだというお話もあって、そういう点で、じゃあどういふふうにこれからしていくのかというのは非常に大きなポイントだと思います。町長さんのお話の中にそういう情報の共有という言葉が出てまいりましたけれども、合併をじゃあ考えるときに一番のポイントは、特にお金の問題は松島さんのお話にも野田さんからもかなり厳しい話が出てきたわけでありまして、今後私たちが合併を考えるときにここがポイントだよと、こういうところをぜひ見て考えてほしいというものは一体何かということで、お話を二人ぐらいの方からお伺いしたいと思います。そういう点では、熊谷さんもお金でそういう状況だということもおっしゃっていましたが、

野田さんいかがですか。簡単にちょっとお話しいただいて、先ほどおっしゃるを得ないということもありましたけれども、どこを一番ポイントとして押さえていると考えるべきか、その要点をちょっと簡単に話していただけませんか。

○野田議員

私が一番気にしているところは、柴町の平均年齢です。私は昭和58年、この町に来ました。今から19年前です。そのときに移り住んだときは、35歳。そうしたら、35歳が平均年齢ということで、ちょうど安食台が開発されたときで、それから19年たつて、今平均年齢が54歳と55歳です。常に、私たちの団塊の世代というのが平均年齢になっています。これから10年後だったら65歳です。それ以上、柴町は私たちが65歳になったら、はっきり言って仕事ももうなくなります。税金も払えません。そうすると、この柴町の税収というのは必ず落ち目となります。そのときに柴町どうするのか。要するに、先ほど言った高齢・少子化という状況になってきて、柴町はそのときにどう対応するのか。もし、柴町だけであるとしたら、これは何も柴町だけの問題じゃなくて、各市町村全部の問題ですけども、そこをもう少し、小さい船じゃなくて大きな船に乗って行って、何かをみんなで、そういう沈むかもしれない船を回避していこうじゃないかというポイントです。だから、私は今この人口と、平均年齢というものを一番気にした考え方を持っています。